

氏名	石 村 均		
学 位 の 種 類	医 学 博 士		
学 位 授 与 番 号	乙 第 1395 号		
学 位 授 与 の 日 付	昭和58年9月30日		
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当）		
学 位 論 文 題 目	西洋ワサビのペルオキシダーゼ法に関する基礎的研究 Ⅱ 電子顕微鏡による検討		
論 文 審 査 委 員	教授 新見嘉兵衛	教授 村上宅郎	教授 小川勝士

学位論文内容の要旨

西洋ワサビのペルオキシダーゼ（HRP）法を用いて、ラットの坐骨神経を電子顕微鏡で観察した。

ラットの坐骨神経に HRP を注入し、注入後5時間から3日目までの材料を HRP 法で処置し、これを電子顕微鏡で観察した。

HRP 注入後5時間目で注入部位の有髓神経線維内に HRP の顆粒を認めた。

HRP 注入後3日目の坐骨神経の起始細胞である脊髓前角細胞の細胞質内には多数の HRP 顆粒が分布していた。しかし、核内には全く認められなかった。また、細胞内小器官にはほとんど微細構造の変化はみられなかった。

HRP 注入後2日目、あるいは3日目では脊髓神経節細胞の細胞小器官の微細構造には、ほとんど変化が認められなかった。ただ、その細胞質内に多数の HRP の顆粒が存在するのがみられた。

上記の所見より坐骨神経の損傷部からの、HRP 注入法では坐骨神経の起始細胞である前角細胞や脊髓神経節細胞はその微細構造にはほとんど変化が認められなかった。

論文審査の結果の要旨

本研究は西洋ワサビのペルオキシダーゼ（HRP）法を用いて、ラットの坐骨神経を電子顕微鏡で観察し、HRP の反応顆粒の有髓神経、脊髓前角細胞、脊髓神経節などにおける態度を解明したもので、価値ある研究であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。